

令和4年度 教育事業
「体験！書道アート」

- 1 趣旨 「書」の基礎知識を学び、書道アートや書道パフォーマンスを楽しみ、日本文化への関心を高める。
体験活動の機会が減少している児童・生徒を対象に日本の伝統文化の一つである「書道」、「表具裏打ち」などの体験活動の機会を作り、体験活動の重要性を広く普及・啓発する。

2 日程

- (1) 期 日 令和4年10月29日(土)～30日(日) 1泊2日
(2) 参加者 小学校3～6年生 女子15名
(3年生7名、4年生2名、5年生5名、6年生1名)

(3) 事業内容

10月29日(土)	10月30日(日)
13:30 開講式 ・仲間作りの活動	6:00 起床
14:30 活動①「書道パフォーマンス」 ・日本航空高等学校石川書道部	7:00 フレッシュタイム
15:30 活動②「書道アートに挑戦」 ・日本航空高等学校石川書道部	7:20 朝食 食堂
17:30 イブニングタイム オリエンテーション	9:00 活動④「表具裏打ち体験」 ・石川県職業能力開発協会 厚生労働省委託事業 「出前ものづくり体験教室」
18:15 夕食 食堂	12:00 昼食 食堂
19:00 活動③「てん刻」	13:00 閉講式、ふりかえり
20:30 入浴	13:30 解散
21:30 就寝	

3 成果と課題

(1) 活動プログラムの実際

①②「書道パフォーマンス」「書道アートに挑戦」

日本航空高等学校石川・書道部に協力いただき、「書道パフォーマンス」を鑑賞した。高校生が音楽に合わせて、踊りも交えて書く姿を見て楽しむことができた。準備の時間には、日本航空高等学校石川・書道部に在籍する国内各地からの生徒や海外(香港、タイ、ウクライナ)からの留学生達の書道に対する思いを聞くことができた。あわせて、留学生からは母国と日本での学校生活の違いなどについてもお話を聞くことができた。参加者は書道という日本文化を楽しみながら体験することで関心を高めるとともに、国際理解についても学ぶことができた。



【書道パフォーマンス1】

「書道アートに挑戦」では、同書道部顧問の池崎美枝子教諭に指導いただき、同書道部高校生の支援を得ながら一人一人が自分の好きな文字や言葉を書くことができた。文字や言葉に加え、顔彩を使って絵や模様も入れて個性豊かな作品を作ることができた。普段の学校や書道教室と異なり、思い思いに文字や言葉を書き、顔彩を使って作品を作ることによって書道への関心を高めることができた。



【書道パフォーマンス2】



【書道アートに挑戦 1】



【書道アートに挑戦 2】



【書道アートに挑戦 3】

③「てん刻」

作品に押す判子を作るために「てん刻」を行った。「書道アートに挑戦」の時間に池崎教諭から、書は「文字・名前・落款」の三つがバランスよく並ぶことが大切であることを教わった参加者は、一生懸命に活動することができた。てん刻を初めて行う児童が多かったが、安全面に配慮して指導・声かけしたことで、一人もけがをすることなく安全に活動することができた。



【てん刻】

④「表具裏打ち体験」

石川県職業能力開発協会に協力いただき、厚生労働省委託事業「出前ものづくり体験教室」を活用し、作品の表具裏打ちを行った。今回は3名の表具師に指導いただいた。参加者は表具についての知識がなかったが、表具についての説明や裏打ちの仕方についてお話を聞き、理解を深めることができた。

実際の表具裏打ちでは、繊細で難しい作業が多かったが表具師の指導を受け、丁寧に作品作りをすることができた。



【表具裏打ち体験 1】



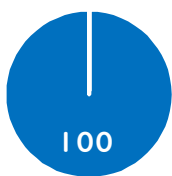
【表具裏打ち体験 2】



【表具裏打ち体験 3】

(2) アンケート結果について

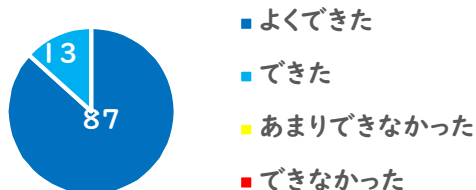
「体験!書道アート」は楽しかったですか。



- とても楽しかった
- 楽しかった
- あまり楽しなかった
- 楽しなかった

- ・ 書道パフォーマンスが感動した。
- ・ 高校生のお姉さんたちが褒めてくれてうれしかった。
- ・ てん刻が楽しかった。うまくできてうれしかった。
- ・ 表具裏打ち体験は難しかったけど楽しかった。

日本文化について関心を高めたり、理解を深めたりすることができましたか。



- ・日本の文化を大切にしたいと思った。
- ・日本文化を知ることができた。
- ・いつもの書写とは違って、絵をかいたり、色を付けたりしたのが楽しかった。

<参加者の自由記述より（一部抜粋）>

- ・普段はできない体験ができてうれしかった。
- ・てん刻や表具や裏打ち体験は初めての体験だったのでいい思い出になった。
- ・高校生のお姉さんたちの様に上手に書けるようになりたいと思った。

(3) 成果と課題

①成果

- ・事業評価アンケートでは、総合的な満足度は「とても楽しかった」100%となっており、肯定的評価が100%となった。日本文化への関心や理解についても「よくできた」87%「できた」13%となり、肯定的評価が100%となった。「このようなキャンプにまた参加したいか」については「とても参加したい」93%「参加したい」7%となり、肯定的評価が100%となった。
- ・「書道」をテーマとする事業は初めての実施であったが、関係機関と協力したことで、日本文化への関心を高めつつ、参加者の高い満足度を得ることができた。
- ・各活動を通し、「書道」を楽しみながら幅広く日本文化について関心を高め、理解を深めることができた。
- ・今回初めて国立能登青少年交流の家の事業に参加した割合が67%で、他の事業と比較するとその割合が高く、新たな利用者の獲得につながった。これまで利用がなかった児童に体験活動の機会を提供できたことは体験活動の重要性を広く普及・啓発することにつながったと考えられる。

②課題

- ・個人で取り組む活動が中心であったため、参加者同士が協力する場面が少なかった。生活の場面では協力する姿が見られたが、活動の中でも参加者が協力する場面を設定する必要があった。
- ・募集対象が小学校3～6年生・中学校1～3年生であったが、小学生のみの参加であった。中学生に向けた広報について今後検討する必要がある。
- ・募集人数が30名であったが、15名の参加であった。これまでの募集案内に加え、近隣市町の書道教室へのチラシ配布も行ったが30名は集まらなかった。このことについても事業の広報について今後検討する必要がある。